

# みどりの 東北

MIDORI NO TOHOKU



冬毛をまとったテン [提供：藤里森林生態系保全センター]

## 特集

今年度の取組を振り返って [津軽白神森林生態系保全センター]  
[藤里森林生態系保全センター]

## CONTENTS

- 美しい森林づくり  
ボランティアと協力した「美しい森林づくり」…………… [米代西部森林管理署]
- 我が署の名所  
蔵王中央高原  
一山形市蔵王温泉スキー場…………… [山形森林管理署]





特集

①

Special Feature Article

# 今年度の取組を振り返って

## 津軽白神森林生態系保全センター

当センターでは、白神山地世界遺産地域の約75%にあたる青森県側の12,627haと周辺地域及び津軽半島の一部を活動エリアとしています。

活動内容は、貴重な森林生態系の適切な保全と利用、遺産地域の巡視活動、二ホンジカ対策及び森林環境教育などに取組みとともに、地域と一体となった活動にも取り組んでいます。

### ●白神山地世界遺産地域の保全管理



大川 巡視状況

世界遺産地域の自然環境を将来にわたり適正に保全・管理していくため、職員による巡視や白神山地世界遺産地域連絡会



ブナ散策道 パンフレット配布



太夫峰 巡視状況

議主催による合同パトロールを実施しています。

今年度も違法行為の防止や入山マナーの向上等を目的に、7月と8月の2回、白神山地世界遺産地域巡視員、地元警察及び漁協関係者と共に合同パトロールを実施しました。入山者の多い箇所を中心に、第1回目（7月21日（火））、大川、ブナ林散策道、赤石川、太夫峰、大峰岳の5コースを実施したところ、たき火や無断伐採等の違法行為やマナー違反は確認されませんでした。

第2回目（8月29日（土））、ブナ林散策道、津軽峠～高倉森、櫛石山・赤石川、笹内川、白神岳の5コースを実施したところ、1回目同様違法行為やマナー違反は確認されませんでした。今後とも入山マナー向上のため、パトロールやチラシ配布による啓発活動を行う



白神岳 パンフレット配布

ていきますので、ご理解とご協力をお願いします。



白神岳 最後の水場

### ●白神山地世界遺産地域巡視員会議

6月上旬に、令和2年度第1回白神山地世界遺産地域巡視員会議（青森県側）を西目屋村中央公民館で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染のリスクを回避するため、書面による会議開催としたところです。本来であれば、関係機関及び巡視員が堂に会し、局長から巡視員へ委嘱状交付、関係機関の今年度事業計画等について説明、活動・入山マナーの協力依頼、二ホンジカ等の情報収

集など、今年度の取組事項を確認するところですが、書面による確認となりました。

入山シーズンが終わった12月10日（木）には、第2回目の巡視員会議が西目屋村中央公民館で開催され、巡視員及び関係機関の49名が参加しました。各機関から今年度の事業実績の報告等があり、その中でもマナー違反等については、今年度、遺産地域にアクセスするルートが5月末から全線通行可能となり、入山者が増加しましたが、マナー違反等の件数は昨年度の10件に対し8件と減りました。意見交換では、入山届の疑問点や改善点等について、活発な意見が述べられました。



巡視員会議

## ●ニホンジカ対策

白神山地世界遺産地域及び周辺地域における中・大型哺乳類のモニタリング調査において、当センターでは32台のセンサーカメラを4月中旬から設置し、11月末までニホンジカの監視をあわせて行った結果、6件6頭のニホンジカが撮影されました。12月以降もセンサーカメラを設置し監視を続け、ニホンジカの移動経路や越冬地に関する参考データの収集を実施しています。

また、ニホンジカの痕跡が見つかったことを踏まえ、来年度も引き続きニホンジカ対策に取り組んで参ります。



ニホンジカ

## ●森林環境教育等

5月上旬、鱒ヶ沢こども園年長園児を対象に、津軽森林管理署と合同で「花いっぱい運動」を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染のリスクを回避するため中止となりました。

例年、園児達は当職員と一緒に花の苗を一生懸命に植えていました。この活動は10年以上続いている活動で、こども園も毎年楽しみにしており、今後も地元末っ子児童への支援を継続していきたいと考えております。

5月に予定していた津軽十二湖自然林養林内での第1回森林教室（深浦町と共催）、また、10月に予定していた暗門の滝遊歩道内での第2回森林教室（西目屋村と共催）は、新型コロナウイルス感染のリスクを回避するため、残念ながら中止となりました。

昨年度森林教室を開催するに当たっては応募者が少ないという課題があり、PRの方法や開催日の検討、コースの見直しなど、応募者増員に向けて取り組みました。今後も同様に取り組んでいきたいと考えています。

自然再生活動は、7月18日（土）と9月12日（土）の2回実施しました。この活動は、白神山地世界遺産地域周辺のスギ人工林を将来、白神山地本来の植生である広葉樹林に戻すことを目的に実施しています。参加者には広葉樹の植樹を行った後、暗門の滝周辺の大径木がある広葉樹林（ブナ散策道）を散策してもらい、植樹した広葉樹が将来大きくなることをイメージしてもらいました。

ブナ林散策の後、白神山地下流域にある津軽ダムを見学し、自然再生活動により植樹した森が水源になることなど職員から説明を受け、参加者の方々は自然再



自然再生活動



津軽ダムで集合写真

生活動の意義について理解を深めました。昨年度に引き続き、鱒ヶ沢町長平青少年旅行村において、西北地区県民局、津軽流域活性化センター主催による「西北地区緑の少年団交流会」が開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染のリスクを回避するため、残念ながら中止となりました。

当センターとしては、この機会を通じて、国有林の役割などを紹介する良い機会でしたが残念な結果となりました。

## ○林業体験学習

鱒ヶ沢町内小学生を対象とし、8月28日（火）西海小学校15名、9月8日（火）舞戸小学校42名が国有林内において除伐作業、森林散策などの体験を行いました。児童達は慣れないノコギリを使った作業に苦戦しながらも生育不良木を取り除いていました。

その後、植物探しのネイチャーゲームを行い、各班に分れた小学生が協力しながら道の脇や頭上などいろいろなところ目に向けていました。植物等について職員から解説を受けると、興味深く耳を傾けていました。



林業体験学習

この体験学習は、津軽森林管理署と合同で実施しており、森林・林業へ少しでも目を向けてくれたらと思っております。当日は地元の新聞社が取材に来ており、インタビューを受けた小学生は少し緊張しながら答えていました。

## ●写真展及び活動展

現在、当センター1階会議室において、職員撮影による写真展と当センターの業務を紹介する活動展を開催しています。

職員が撮影した動植物・風景や巡視活動の様子、センサーカメラで撮影された動物、巡視の際に使用している道具などを解説付きで展示しております。

写真や活動内容については順次更新していきます。近くを訪れた際は、是非お立ち寄りください。



写真展



活動展



特集

②

Special Feature Article

# 今年度の取組を振り返って

## 藤里森林生態系保全センター

当センターでは、白神山地世界遺産地域（秋田県側）4,344ha及び周辺地域に存在している貴重な森林生態系について、適切な保全と利用を図るため、遺産地域及び周辺地域の巡視活動や二ホンジカ対策、森林環境教育等の活動に取り組んでいます。

### ●白神山地世界遺産地域の巡視活動

白神山地世界遺産地域を適切に保全するため、入山者の多い箇所を中心に、登山者への入山マナーの注意喚起や標識類の状況確認等を実施し、樹木の損傷や高山植物の盗掘等の違法行為が行われていないか巡視を行いました。また、今年度は核心地域についても、合同パトロールやブナ林長期変動調査の監督業務に合わせ、粕毛川源流部の巡視を実施したところだ。

白神山地世界遺産地域連絡会議主催による合同パトロールは、秋田県側核心地域に釣人が入りやすい時期を想定して実施されました。1回目は7月中旬に、一ノ又沢コースと二ツ森コース、2回目は粕毛川源流部コースと大滝コースにおいて巡視を行いました。両日とも暑すぎる

ほどの好天に恵まれ、沢歩きには最適な気温でした。

過去には釣人によるごみの放置や禁漁区での釣人への遭遇などがありました。今年度は日頃の巡視活動等の成果もあり、違法行為やマナー違反は確認されませんでした。

このように良好な状態で利用されているのもボランティアで熱心に活動されている巡視員の皆さんや、関係機関の方々の日頃からの取組のお陰と感謝しています。



緩衝地域を進む（一ノ又沢）



核心地域巡視の様子（長期変動調査区付近）

### ●白神山地世界遺産地域巡視員会議

今年度は新型コロナウイルスの影響で一同に会した会議が実施できないことから、令和2年度第1回の白神山地世界遺産地域巡視員会議（秋田県側）は初めての書面開催となりました。事前に関係者へ質問等の聞き取りを行ったの開催と

なりましたが、白神山地への造詣が深い方々ばかりなのでスムーズに開催することができました。

12月11日（金）には新型コロナウイルス対策を行いながら第2回目の巡視員会議が八峰町文化交流センター「ファガス」で、巡視員、関係機関の総勢33名が参加し開催されました。今年度の事業実績の報告の他、二ホンジカの目撃情報や被害が拡大しているナラ枯れなどについて報告がありました。巡視員から「白神山地にナラ枯れが発生した場合の対策はどうか。」との質問が出され、事務局からは「発生状況に応じた対策を確実に実行していくので、巡視の際に発見した場合は連絡をお願いしたい。」と回答され、ナラ枯れに関する関心の高さがうかがわれました。



新型コロナウイルス対応の座席配置（米代西部署長挨拶）

### ●森林病虫害の未然防止

白神山地世界遺産地域の緩衝地域であ

る小岳には、本州最低標高に生育する貴重なハイマツ群落が見られます。過去には「マツノクロホシハチ」という蜂の一種によりハイマツの葉の食害が確認されたこともあり、食害調査を毎年継続して実施しているところです。今年度は幼虫による食害が最も多くなる10月上旬から調査を開始しました。結果としては、昨年を引き続き幼虫は見当たらず、食害も確認されませんでした。

森林病虫害が発生すると最悪の場合、貴重な樹種を枯らしてしまうことも考えられることから、今後も継続して調査を実施していきます。



食害を調査する職員

## ●ニホンジカ対策

当センターでは白神山地世界遺産地域「ニホンジカ」に基づき、中・大型哺乳類調査を実施しており、ニホンジカの生息域についても調査項目としてあげられています。

今年度も4月上旬から世界遺産地域周辺へセンサーカメラ30台を設置し調査を実施してきました。そのうち、八峰町に設置してあるセンサーカメラには11月末までに6頭、藤里町に設置してあるセンサーカメラには4頭のニホンジカが撮影されました。昨年度は八峰町での撮影が主でしたが、今年度は藤里町の奥山でも撮影されていることから、活動範囲が広がったか、若しくは頭数が増えたかのいずれかと思われます。また、今年度は藤里町でイノシシ2頭が撮影されており、こちらも注意が必要です。いずれも生態系への影響が危惧されることから、今年度も低標高地ではセンサーカメラを引き続き冬期間も稼働させ、可能な箇所についてはデータ回収を行いながら、ニホンジカの生息調査を実施してまいります。



センサーカメラにより撮影されたニホンジカ

## ●森林環境教育等

例年、新緑の6月に実施してきた藤里幼稚園の「ブナの森探検」は新型「コロナ」の関係で開催が危惧されましたが、10月に感染対策をしながら実施することができました。

1日目は白神山地世界遺産センターでブナの森を探検する際のルールやマナー、ブナの木について事前学習を行い、2日目は岳岱自然観察教育林でブナの森探検を行いました。園児達には、「探検カード」を使い、シートにある写真と同じ葉を見つけてもらいました。葉の中には噛むと酸っぱい味がするものもあり、園児たちは噛んで歓声を上げていました。また、白神のシンボルである「4000年ブナ」ではその大きさに驚き、ブナの実を食べてみたり、林内の湧水を飲んだり、遊びながらの学習を存分に体験して笑顔をはじめさせ、普段では経験できない「探検」を満喫しました。



ブナの実の皮を剥くようせがむ園児

9月11日（金）、秋田県立二ツ井高等学校の生徒38名が、白神プロジェクト活動の一環として、植樹活動と白神山地の観察会を行い、当センターもNPO法人あきた白神の森倶楽部と一緒に活動へ協力しました。

白神プロジェクトとは、白神山地に世界に近い高校である二ツ井高校が、白神山地を教材とした総合学習を実施し、世界自然遺産である白神山地の魅力を外部に発信することを目的に行われているものです。昨年度はこれまでの活動が評価され、全国植樹祭において全日本学校緑化コンクール学校林等活動の部で準特選を受賞しました。

当日は午前中に植樹活動を行い、スギのコンテナ苗とブナのポット苗を生徒達がディブルや鋏を使い、枝条に悪戦苦闘しながらも予定した苗木すべてを植えることができました。午後からは岳岱自然観察教育林で自然観察を行い、白神の森の魅力を探検し、森林の役割や白神山地の保全の大切さについて理解を深めました。



ヤチダモについての説明を受ける高校生

9月25日（金）、30日（水）の両日に渡り、藤里町社会福祉協議会より「まち自慢講座」の依頼があり、センター職員が講師を務めました。この講座は町民が記憶や経験を語り合い、学び合いながら藤里町の魅力を再発見し、発信していくという趣旨のもので、昨年に引き続きの開催となりました。

10月24日（土）には藤里町民祭でパネル展示を実施し、当センターの活動と白神山地の生態系について紹介しました。なお、詳細は95号の白神通信をご覧ください。

今年度は新型「コロナ」ウイルスの影響で入込み者が減となり、当センターで実施する予定であった森林講座も中止となつてしまいました。そんな中、白神山地を少しでも身近に感じていただけるよう当センターのホームページに「写真集：白神山地（秋田県側）の森林生態系」<http://www.rinya.natf.go.jp/tohoku/syo/huzisato/syashin/syashinsyu.html>を新規作成しました。外出の自粛が求められる中、ご覧いただき、少しでも気分転換を図っていただければと思います。



藤里町民祭で写真に見入る方々



写真集：白神山地（秋田県側）の森林生態系

# 美しい森林づくり

## ボランティアと協力した 「美しい森林づくり」

米代西部森林管理署

当署管内には400年  
ブナなどを見ることがで  
きる岳岱自然観察教育林  
があります。ここは世界  
自然遺産白神山地に隣接  
し、多目的展示施設、バ  
リアフリーのトイレや車  
椅子で散策できるウッド  
チップ歩道などが整備さ  
れており、一般の方が気  
軽に白神山地の原生的な  
ブナ林の雰囲気を楽しめ  
る希少な森林であります。

今回は、当該地で藤里  
森林生態系保全センター  
の協力により獨協大学の  
学生がボランティアで毎  
年実施している取組を紹  
介します。

獨協大学では平成29年  
からエコツアーリズムを活  
かした持続可能な農村地  
域作りと農業について、  
自然体験やボランティア  
活動を通じて学ぶため

に、藤里町でゼミ合宿を  
実施しています。

合宿では、岳岱自然観  
察教育林の他にレクリ  
エーションの森にもなっ  
ている「くるみ台森林ス  
ポーツ林」、「小岳自然観  
察教育林」や「二ツ森自  
然観察教育林」も活用し  
活動を行っています。

本年度は「コロナ禍」  
もあり開催できませんで  
したが、これまでのボラ  
ンティア活動として、歩  
道の補修、木道の滑り止  
めの設置やチップ歩道の  
修理などを行っています。

ウッドチップの歩道補  
修は、歩道のウッドチッ  
プが土化し表面を雨水が  
流れる状態にある箇所  
にウッドチップを敷き詰め  
る作業です。ウッドチッ  
プを米袋に袋詰めする  
班、袋詰めしたウッド



400年ブナ



作業中の様子



ウッドチップ歩道

チップを一輪車や人力で  
運ぶ班、ウッドチップを  
蒔いてレーキでならし踏  
み固める班の3班に分か  
れて取り組みました。昨  
年度は8月の暑い時期に  
行いましたが、若いエネ  
ルギーのおかげで一日の  
予定が午前中で作業を終  
了しました。

学生さんからは、「白神  
山地での保護活動の貴重  
な体験ができてよかつ  
た」などの感想がありま  
した。今後も、新型コロナ  
の影響を見ながら、継  
続して取組を進めていけ  
ればと思っています。



# 分水嶺とお花畑

ツバメオモト、ベニバナイチヤクソウ、  
サンカヨウ、オオバキスミレ、ワタスゲ、ミツガシワ

三八上北森林管理署 地域統括森林官 松尾 亨

本州の分水嶺の踏破に挑み青森の竜飛岬をスタートし、18年かけ上越国境の三国峠まで約1000Kmの山旅をした友人がいます。分水嶺には道はなく、チシマザサの藪が延々と連なる過酷なジャングルで、点と線のように一部の稜線に登山道がある程度です。今回はそんな山旅でオアシスとなる花畑と分水嶺のお話をします。

**ツバメオモト**は高山の樹林帯で見られ、厚みのある葉が特徴。初夏に6弁の小花をまとめて付け、実は藍色。由来は葉を万年青、実をツバメの頭部の色に見立てた。**ベニバナイチヤクソウ**は高山のダケカンバなどの樹林帯で見られ、葉は丸く艶があり30cmほどの花茎に、ピンクで円形の花を多数付ける。**サンカヨウ**も樹林帯で見られ高さ50cm程で、大型で切れ込みのある葉が2枚。白い6弁の小花をまとめて付ける。雨に濡れた花弁が透明になる姿も美しい。**オオバキスミレ**は日当たりの良い亜高山帯で見られ高さ30cmほど、葉は先のとがった卵形で花は黄色く、唇弁と側弁は紫色の筋がある。**ワ**

**タスゲ**は高層湿原で群生し高さ50cm程で、葉は線形で3稜。花は黄色く小さな筆に似ている。写真のように実が熟す頃には花被片が綿状になり名の由来。**ミツガシワ**は高山帯の池塘で見られる水生植物で、葉は3枚で中心部から30cmほどの花茎を出し、初夏に白く淡紫色の小花を総状に付ける。由来は櫛の葉に似ていて3枚なことから。

分水嶺の旅には八幡平のお花畑や鬼首のカルデラなど絶景ポイントもあり、日本海と太平洋を分かつ大河の原点を歩く旅でもあります。支尾根の分岐点をコンパスとGPSで読み、時には道に迷いながらの旅は人生にも通じますね。踏破者の静岡県の大島氏は、出会った東北人の温かい人情と、生き物たちとへの共感と敬意を感じたと日本山岳会誌で述べています。東北の山と人々の素晴らしさを大事にしていきましょう！今回でミニコラムの担当も最終稿となります。ご愛読ありがとうございました。還暦からの山歩きは藪漕ぎよりお花畑のほうがいいかな！



①ツバメオモト



②ベニバナイチヤクソウ



③サンカヨウ



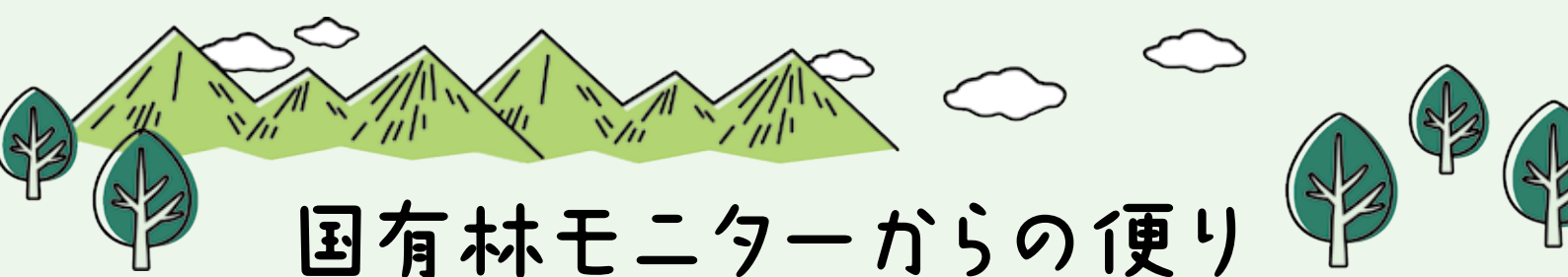
④オオバキスミレ



⑤ワタスゲ (実)



⑥ミツガシワ



# 国有林モニターからの便り

## 〜里山での燃料自給を考える〜

山形県山形市 工藤 篤

### 【きっかけ】

拙宅には、区分保有する里山がありま  
す。現在は全く活用できておらず、何と  
か有効活用できないものかと、定年前か  
ら考えていました。モニターになれば何  
かヒントになるような情報やお知恵が頂  
けるのではないかと思ったのです。炭や  
薪が主な燃料であった昭和初期以前、自  
給燃料の足しにするため自宅から3kmほ  
ど離れた「燃料庫」としての里山で伐採  
した木材を大八車で運んでいたようで  
す。当時は、近隣の家々でも里山を区分  
保有していたようで、その山の所有権を  
示した図面を見ると山頂を頂点とした円  
錐形に細かく区分されています。しかし、  
実際現場に行ってみると何十年も放置さ  
れてきたため境界が判然としないのが現  
状です。

### 【3・11を経て】

東日本大震災から間もなく10年の月日  
が経ちます。この間、原発事故の教訓や  
地球温暖化対策もあり、環境負荷の少な  
い再生可能エネルギーが着目され国に

よって利用拡大が推進されてきました。  
私も蔵王温泉地区で運営を始めた小  
さな交流館にペレットストーブを導入  
し、また、太陽光発電も設置してみました。

### 【現地見学、モニターとしての感嘆！】

青森県と岩手県の現地を見学させて頂  
いた。青森県では、小雨の中、地すべり防  
止対策による国土保全、岩手県では、重  
機を導入した作業一貫体系による近代的  
な林業の現場見学と植林体験をさせて頂  
いた。

これまでの私の林業のイメージは、秋  
田杉や金山杉、青森ヒバのような美林の  
伝統的な産地がある反面、多くは輸入外  
材に押され再生産できない経営環境の  
中、後継者が育っていない悪循環に置か  
れている、というものだ。しかし、現地  
で目の当たりにしたのは、径50cm余りの大  
木を稲を鎌で刈るかの如く、瞬時に切り  
倒す最新鋭の重機パワー、続いて、切り  
倒したばかりの大木をリング状のカッ  
ターが挟んで左右に動かすことで、あっ  
という間にきれいな丸太に仕上がる様に

は、驚愕！

### 【国土保全と林業の活性化】

今回は、現場を知ることの大切さを痛  
切に感じました。日本国土の7割を占め  
る森林の多くの機能を保全する地道な取  
組み。また、近代的な作業一貫体系の林  
業の現状。今は、数十年の林野管理の時  
を経て、出荷を待つばかりに育った林木  
が多く存在しているサイクルを迎えてい  
ること。今後、多くの若手担い手が、  
森林を舞台に活躍されることを祈念せず  
にはいられません。

### 【やて、どうする？】

私の理想は、先祖が残したわずかな里  
山の林木をかつてのように自給燃料を調  
達する場として再活用することです。燃  
料として雑木を切り、「薪」として活用す  
る。となると炊事のための竈(かまど)を  
設置する必要があり、風呂も五右衛門方  
式に改良する必要があります！また、薪  
を積んでおく場所、加えて、防火対策。伐  
採した後には植林。諸々の改修コストや  
労力を考えると果たして現実的か悩むと  
ころではあり、模索は続きます……。

### 【最後に】

この度のコロナ禍の中、万全の体制で  
現地見学のご準備を頂いた東北森林管理  
局の皆様ほんとうにありがとうございました。  
益々のご活躍を祈念いたします。





# 森林官からの手紙

## 地域住民とのつながり

下北森林管理署 首席森林官 尾留川 修



仏ヶ浦



仏ヶ浦にある「如来の首」



箭根森八幡宮例大祭山車



縫道石山 (623m)

私が勤務する佐井森林事務所は、本州最北端にある下北半島の北西部に位置し、佐井村全域の約1万2千haの国有林を管轄しています。

佐井村は、南北に細長く約40kmにおよぶ海岸線沿いにあり、魚介類がとれる漁場が広がっています。その海岸線の南側にある「仏ヶ浦」は一千年以上前の海底火山活動と隆起によって誕生したもので、その後波食と海中の塩による風化を繰り返して「奇岩」となり、古くから信仰の場としても有名です。1941年には国の名勝及び天然記念物に指定されて以来、神秘的な偉容が全国的に知られ、今では年間数十万人が訪れるという下北半島の観光名所となっています。

また、江戸時代より西廻り航路の貿易で活躍した北前船は佐井村にも寄港し、数々の文化を運んできました。「箭根森（やのねもり）八幡宮例大祭」も現在まで300

年以上続いている佐井村最大のお祭りであり、雄壮なお囃子や山車飾りなどは京都祇園祭に由来すると思われる様式が色濃く残っております。令和2年はコロナ禍の影響で中止になりましたが、私がここに着任してからの2年間、9月14日から16日までの3日間、袴を着て村民と練り歩いたことはいい思い出です。

そのほかには、男女が寄り添うように鎮座している「願掛岩」、オオウラヒダイワタケなど珍しい植物が分布している「縫道石山」、キタムラサキウニを楽しめる「ウニ祭り」など名所・名物が数多くあります。

さて、ここ佐井村は海岸近くの段丘面に平らな場所がわずかにあるだけで、佐井村総面積の92%が森林で、その内の約86%が国有林で占めています。佐井村にある国有林の特色として、分収造林契約面積が他の管内森林事務所と比べて約425haと多いことです。

戦前から戦後にかけて青森ヒバは全国商品として脚光をあげ、全国の消費地へ運ばれました。佐井村に個人所有者の山林が少なかつたため、伐採跡地に山を求め分収造林契約をし、スギやキリを植えたと聞いています。今この契約地が満期とともに主伐を迎え、伐採後の再造林事業が多くなっています。

森林事務所の業務は、各種監督業務のほか、林道の維持管理、境界の保全管理、観光地等での貸付地の状況確認など、多岐に渡りますが、特に地域に根差した森林事務所として、住民からの要望や相談ごとがあつた場合は、迅速・丁寧に対応することを心掛けています。

また、この管内ではゴミの不法投棄事案が度々発生していることから、林野巡視を強化するとともに、関係機関と連携し、現場窓口として「報告・連絡・相談」を確実に、より一層地域住民とのつながりを深めていきたいと思っています。



# 我が署の名所

## 蔵王中央高原

### 蔵王中央高原 蔵王温泉スキー場

#### 山形森林管理署

山形森林管理署は、山形県の中央から東へ位置した、寒河江市にあります。

日本百名山の一つである「月山」や「大朝日岳」などの山々に囲まれ、中央部には、「最上川」が流れ、そこへ「寒河江川」などが合流しています。管内には、自然景観等に優れた「磐梯朝日国立公園」、「蔵王国定公園」などの自然公園があり、その中でも、樹氷で知られる蔵王温泉スキー場がおすすめです。



蔵王温泉スキー場

春には、蔵王中央高原が長い冬から目覚め、爽やかな空気の流れとともに、新しい命が芽吹く季節へと変わっていきます。また、春スキーも5月上旬まで楽しむことができます。

夏には、目にまぶしいほどに緑が輝き、新緑の季節を迎えます。コマクサやハクサンシヤクナゲなどの可憐な花々が咲き誇ります。コマクサも7月頃から行われ可憐な花と一緒に歩くことができます。



新緑のドッコ沼



坊平の紅葉



コマクサ

秋には、緑色が赤色や黄色などに姿を変える大パノラマの紅葉も見応え十分です。9月頃には雲海も見ることができます。また、四季折々の空気を味わいながらのトレッキングも楽しめます。トレッキングコースも、初心者コースや一般コース、健脚コースがあり、自分の体力にあったコースを選び、ゆったりと風景を見ながら蔵王の大自然を楽しむことができます。

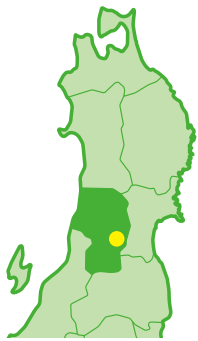
しむこともできます。

冬にはパウダースノーで楽しめるスキーやスノーボード、そして最大の魅力は樹氷鑑賞です。

特に、夜にライトアップされた樹氷を雪上車に乗って鑑賞する「樹氷幻想回廊ツアー」では、様々なモンスタに出会うことができます。漆黒の闇の中にライトアップされた樹氷は、幻想的な世界に迷い込んだ雰囲気させてくれます。



樹氷



- 東京～新幹線 約3時間
- 東京～飛行機 約1時間
- 名古屋～飛行機 約65分
- 大阪～飛行機 約75分

#### ◎交通アクセス

自動車…車で東北自動車道村田JCTから山形自動車道山形蔵王ICまで約40分。その後、国道13号線経由で蔵王温泉スキー場まで約40分。

